

今後のごみ処理のあり方について（1）

A ごみ処理方式によっては、住民の負担（ごみ分別など）と各自治体の負担（収集・運搬など）が変わる可能性があります、どのような考えをお持ちですか？

自治体	ご回答	自治体	ご回答
ア	今後、超高齢社会を迎えることから、分別区分が少なくなるなど住民負担の軽減・収集経費削減に繋がる処理方式を検討したい。	コ	どのごみ処理方法を採用しても、基本的な分別・収集・運搬方式は変わらないと考えるが、生ごみを分別する場合は影響が出てくる。 生ゴミは現在「可燃ごみ」のため、分別する場合は「専用袋」と新たな収集日の設定が必要。 生ゴミのみの収集・運搬が必要となる。
イ	ごみの処理方法については、ごみ分別の方法を記載した冊子の配布など様々な方法で周知し、協力をお願いしているが、高齢化が進む中、さらなる分別の細分化は難しいと思われる。 また、収集・運搬についても大幅な変更は費用や作業体制の面で難しいものとする。	サ	廃プラスチックを燃やせるごみとして収集し焼却処理することで、埋立量の低減化や最終処分場までの運搬等も含め各自治体の負担も多少軽減できるのではと考える
ウ	今まで以上のごみの分別や資源化は住民負担を考慮すると、できるだけ、現状の収集・運搬の体制を維持したい。	シ	処理方式によっては、分別が変更になるため、「燃やさないごみ」の中から「燃やすごみ」に変更した場合、パッカー車の容量等の変更（燃やさないごみ車から「燃やすごみ」に分別変更による「燃やすごみ」車の大きさ、搬送回数の変更等）に伴う費用負担増を懸念している。
エ	自治体のごみ処理の基本的な考え方は、ごみの減量、リサイクル、適正処理体制整備であることから、その実現のためにごみの分別など新たな負担が増えることはやむを得ないと考える。	ス	住民・自治体の負担の折り合いも必要だが、将来に向かって方向性を持った分別方法を説明していかなければならない。（住民の理解が得られないし、過度な分別はいたずらに双方の負担が重くなる。）
オ	住民に周知しなければならないため、余裕をもった準備期間をいただきたい。 また、住民の混乱を少なくするために、変更点は最小限にしてほしい。 変更のタイミングは、年度替わりであるとありがたい。	セ	住民の負担増が過度にならないように考えている。
カ	住民と自治体ともに負担が軽減されることが好ましいが、循環型社会の推進や環境負荷低減（最終処分量の削減と最終処分地の延命化）、財政負担との費用対効果の比較による検討が必要である。	ソ	ごみ処理方式もそれぞれの長所・短所があり、100%というものがないと思うので、その中でどうしても負担が必要なものであれば相互理解を得るための方策を検討し進めるしかない。
キ	現在の収集方法、分別、資源化等は住民に定着しているが、高齢化等により対応できない状況等も出てきているため、これ以上住民負担増とならないよう配慮したい。 住民の利便性が向上する効果がある事業には、自治体の費用増は仕方ない。	タ	ごみの共同処理に加入する場合は、住民に対して、十分な説明が必要であるため、時間をかけて説明し、協力・理解を求めていく。
ク	当自治体も高齢化と共に高齢世帯及び独居老人が増加しており、ごみの分別が困難との声もあることから住民の負担軽減（手間と処理料）が図られるごみ処理方式に見直してほしい。	チ	分別方法の変更や負担増加は住民周知など課題が多く、運搬経費の増大が懸念されるため、経費の軽減される方法で検討してほしい。
ケ	現在行っている住民のごみ分別をもっと詳細に分けることは困難と考える。 現在と同程度か、廃プラを可燃とする分別方法にするなどの負担が軽減されるように見直してほしい。 収集・運搬の自治体負担は、どのような収集方法が変わるのかにより変わってくるので、一概に言えないが、現在と同程度か軽減される方向になることを望む。	ツ	ごみの分別は住民の負担となっており、分別が徹底されているわけではない現状では、住民の負担が現行と同じか、軽減されるようなごみ処理方式が望ましいと考える。 生ごみだけを収集することは、住民、自治体共に負担となり、望ましくないと考える。
		テ	当町は現在、燃えるごみ、燃やせないごみ、燃えないごみ、大型ごみ、資源ごみ（10 種類）の分別であるが、住民（特に高齢者）から分かりづらいつと指摘されており、これ以上の分別はかなり困難だと思う。 収集・運搬に係るこれ以上の負担は避けたいが、必要な負担であればやむを得ないと思う。

今後のごみ処理のあり方について（２）

B 循環型社会の形成に向けて、ごみの発生抑制・再使用・再利用（3Rの推進）を優先的に進め、それでもなお残るごみについて、国はエネルギー回収することを推進していますが、現在は焼却している生ごみや埋立している廃プラスチックの処理を見直すことも考えられます。このことについて、どのような考えをお持ちですか？

自治体	ご回答	自治体	ご回答
ア	生ごみなど廃棄系バイオマスの利活用は、循環型社会の形成や地球温暖化の防止にも資することから、利活用が効率的に行えるかどうか検討する必要があると考えている。 また、ダイオキシン対策や炉に問題が無ければ、廃プラスチックは焼却してサーマルリサイクル(エネルギー回収)の考え方も必要。	コ	当自治体としては、廃プラスチックは焼却処理しているため、見直しについては問題ない。
イ	循環型社会の形成に向けた3Rの推進は当然必要であるが、生ごみの分別収集については、当自治体では、収集コストや排出場所の衛生管理の上で難しい状況である。 ただし、廃プラスチックの焼却処理については、現時点では大きな問題はないと考える。	サ	自治体ではこれまでリサイクル処理を積極的に行ってきたが、共同処理においても可能であれば生ごみの資源化を検討すべきかと考える。
ウ	廃プラスチックと生ごみの資源化は大きな課題だと考える。すでに管内では分別収集し、バイオマス事業に取り組んでいる自治体もあることから、処理方法について学んでいきたい。 また、廃プラスチックは焼却してエネルギー回収すべきと考える。	シ	自治体は現在、生ごみの堆肥化を行っている。 高齢者が多いことから、分別の負担はできるだけ少ない方がよく、廃プラスチックを含め、焼却の上、エネルギー回収すべきと考える。
エ	自治体では生ごみを回収し、リサイクルする体制が整備されている。 廃プラに関しては、焼却してもダイオキシン類を排出基準内に収める技術が確立されていることから、現在の埋立処理を見直し、焼却してエネルギー回収したほうがよいと考える。	ス	金属・新聞類・紙パック等、分別及び資源化がしやすい品目は積極的に分別すべきと考えるが、分類しても結果焼却としての燃料になるのであれば、無理に分別しないで発電用燃料(焼却)としての分類方法も一つの考え方だと思う。 ・ビン類は資源化が難しいが分別はしやすい ・ペットボトルは、分別しやすい ・分別の手間とバイオマス等の設備投資額、またそれで得られるエネルギー等の総合的判断が必要 ・上記以外特殊な物でなければ混在で収集して発電用燃料としての分類で焼却(事前に破砕もあり)もできるのではないかと
オ	廃プラスチック類の焼却について、ダイオキシンの排出を基準値内に収められるのであれば、焼却し、エネルギー回収すべきではないか。 生ごみについては、比較的リサイクルしやすいと思うので、可能であればエネルギー回収の方向で進めるべきではないか。	セ	国の方針やダイオキシン類を排出基準内に納める技術が確立されていることから、最終処分場のことも踏まえ、廃プラは焼却してエネルギー回収することも検討していくべきと考える。
カ	循環型社会の形成に向けた3Rの推進を優先的に進めるとともに、生ごみ、廃プラスチック処理についても可能な限り再資源化やエネルギー回収を進めることが好ましい。	ソ	ごみの総量を減らしていくことも重要であるが、一方で減らしていくための(分別)という認識づくりもとても大切だと考えられ、矛盾するようで難しい問題である
キ	現在の処理方法が地域の実情に適っていると認識している。 生ごみもコンポスト助成による堆肥化促進など、地域で循環している。	タ	生ごみ、廃プラの処理をすることで、ごみの減量化ができることは、良い事だと思う。 ただし、安全な処理方法が必要と考える。
ク	二酸化炭素(CO2)の排出抑制も重要ではあるが、廃プラについては最終処分場の長期化を見据え、資源化できない一部の生ごみなどと合せて焼却することによってエネルギー回収を進めるべきと考える。	チ	生ゴミは現行どおり焼却、廃プラスチックはダイオキシン排出基準内の技術が確立されるなら、焼却処理と考える
ケ	生ごみは、資源化する場合のコスト面や費用収入、堆肥化の利用の有無を検討してからと考える。 また、現在のように焼却することも有りかと考えるが、資源化する場合は、分別等の住民負担が増えることは考慮が必要と考える。 廃プラは、焼却することが一番コストもかからないと考えるが、リサイクル、焼却以外に使用目的はあるのか選択肢を示して検討すべきと考える。	ツ	3Rは推進するべきだが、それでも残るごみについては、生ごみのメタン発酵や廃プラスチックの焼却処理により、エネルギー回収を行うとともに、最終処分量を減らすべきだと考える。
		テ	ごみの発生抑制・再使用・再利用(3R)を基本としつつ、生ごみについてはメタン発酵による発電、廃プラスチックについてはエネルギー回収として考えても良いのではないかと。

今後のごみ処理のあり方について（3）

C ごみ処理方式によっては、最終処分量が変わる可能性があります。今後最終処分量についてどのようなお考えをお持ちですか？

自治体	ご回答	自治体	ご回答
ア	最終処分量の低減は資源化と最終処分場の延命に繋がることから、ごみ処理システム(収集・中間処理・最終処分)全体のコストを考慮し、可能な限り低減を図るべき。	コ	廃プラを燃やすことへの見直しにより、埋立量の減少を図ることが望ましい。
イ	最終処分量の減量化や施設のコンパクト化は望ましいことであるが、施設に容量がある以上、いずれ飽和状態となり増設の必要性が出てくる。将来にわたって安全管理がされ、地元住民の理解が得られる施設を計画することを中心に進めるべきと考える。	サ	最終処分場の延命化を図るためにも、可能な限り埋立量を縮減することが必要と考える。
ウ	最終処分量はできるだけ減らすことで、うめーるセンターの延命措置ができると考える。新たに最終処分場を建設する費用負担の軽減化を考えてほしい。	シ	最終処分量の削減に寄与する処理方式がよいと考えるが、処分量の削減ありきで、処理方式を決定すべきではない。
エ	最終処分量を減らすことによって最終処分場の規模を縮小していく方向で検討してはと考える。	ス	焼却灰の処理方法や問題点もいろいろあると思うが、資源化しやすいもの以外、一旦焼却したほうが処理量が最小になると考える。 ダイオキシン等の課題がクリアできれば検討していく価値があると思う。
オ	最終処分場をより長くもたせるためには、処分量を可能な限り減らすことが必要なので、最終処分量が減るような処理方法を導入できるとよいが、費用負担の額にもよる。	セ	処理の方法で量の軽減が図られれば、建設規模も縮小できると考える。(建設候補地が多くなる)
カ	処理方式を見直すことで最終処分量の削減と最終処分地の延命化を図り、環境負荷低減を推進することが好ましい。	ソ	最終処分場は無くすることが出来ないし、必ず場所の確保が必要だと考えれば、総量を減らす取組み(方式)が重要だと思う
キ	現在の最終処分場は、地域の理解もあり問題とはなっていない。 また、閉鎖後も問題とはならないと思われる。 十勝地域であれば、現処分量を十分受け入れる最終処分場は整備できると思う。	タ	(回答なし)
ク	現時点では明らかでない最終処分場の後年度影響等を考慮し、可能な限り最終処分量を低減すべきと考える。	チ	費用負担を増やさない対応での検討が望ましい。
ケ	今後、人口の減少によりごみの排出量の減少も考えられるため、最終処分量も減少するのではないかと考える。 また、廃プラを焼却させることで最終処分量も減少できるのではないかと考える。	ツ	最終処分場を長期に使用することや、新規最終処分場を建設する際の負担の軽減につながるため、最終処分量の低減を図るべきとは思いますが、一方で、二酸化炭素排出量を抑制することは重要な課題であり、バランスが必要だと考える。
		テ	最終処分場の新設についてはかなりの労力とコストが必要と思われる。 可能な限り、最終処分量を減らし、最終処分場の延命を図ることが重要だと思う。

今後のごみ処理のあり方について（４）

D 地球温暖化防止や環境負荷低減の観点から二酸化炭素（CO2）排出抑制は重要だと認識しておりますが、そのことについてどのような考えをお持ちですか？

自治体	ご回答	自治体	ご回答
ア	可能な限り二酸化炭素排出量の抑制を考慮するべきと考えている。	コ	必ずしも二酸化炭素排出抑制が地球温暖化防止に有効とは考えていない。重要なのは、ごみの発生抑制を図り、限りなく焼却量を減らすことにより再使用・再利用(3Rの推進)を優先的に進めることと考える。
イ	地球温暖化対策、二酸化炭素排出抑制についても当然検討すべきであるが、最優先のテーマにはならない課題と考える。処理方法等の検討過程で、比較が可能な情報を提供していくべきと考える。	サ	地球温暖化対策は世界的共通課題であり、自治体においては、費用負担も見込まれる。最終的には国の責任において取り組まなければ解決できるものではないと考える。
ウ	できるだけ、二酸化炭素(CO2)は排出抑制に努めるべきと考える。排出基準値を大きく下回る技術が確立されるのであれば費用負担も考えなくてはならない。	シ	二酸化炭素排出量の抑制は必要と考えるが、抑制のため、自治体の費用負担や住民負担が増すこととなる場合は、負担増を強いてまで、進めるべきではない。
エ	可能な限り二酸化炭素排出量の抑制を図っていく方向で検討してはと考える。	ス	安易に焼却だけでは問題があるが、発電によりエネルギーを回収することは一つの重要な方策であると考えられる。仮に CO2 が問題であるため、焼却をやめてすべて破砕埋立処理の方法を選択できるのかは疑問であり、結果焼却処理は選択するしかないと考える。
オ	地球温暖化防止対策は必要であり、排出抑制は重要と考える。	セ	可能な範囲で、二酸化炭素排出量の抑制を図るべきと考える。
カ	二酸化炭素(CO2)の排出抑制による地球温暖化防止や環境負荷低減を図ることは重要である。	ソ	二酸化炭素排出抑制のための処理方式も年々改善(技術向上)していると聞いており、新施設でもぜひ積極的に取り入れてほしい。
キ	各自治体の環境対策として、省エネルギーや新エネルギーの対策に取り組んでおり、今後も継続して、取り組むべき。 ノーカーデーなど個人的な取り組み、運動を広げていくことが必要である。	タ	地球温暖化は現状で避けられない状況であることから、各家庭や職場等での取組みが求められると考える。
ク	二次的に CO2 を分解・抑制する研究を推進するよう、プラントメーカーに求めることにより処理方式の選択肢が増えるし、各業界に共通のメリットが生まれる。	チ	二酸化炭素の抑制は必要だが、費用負担を増加させてまで、取組みを進めるべきでない
ケ	二酸化炭素の排出抑制は必要と考える。 新施設設備は、二酸化炭素排出量の抑制を図ることができると考えているが、設備費用などを勘案し、どのような設備でどこまで抑制ができるのかを検討すべきと考える。	ツ	二酸化炭素排出量の抑制を行うべきだと考える。
		テ	二酸化炭素(CO2)排出抑制は重要だと思いますが、あまり膨大なコストをかけてまでの抑制は現実的ではないと思う。 国レベルでの問題とも考えられるので、国からの手厚い支援が必要だと思う。

今後のごみ処理のあり方について（５）

E ごみ処理方式によっては、各自治体の財政負担が増加する可能性があります、今後の財政負担についてどのようにお考えですか？

自治体	ご回答	自治体	ご回答
ア	人口減少・少子高齢化の進行に伴い、税収減などにより今後も厳しい財政状況が予想されることから、財政負担の増加は出来る限り避けるべきだと考える。 事業方式や収集・中間処理・最終処分のシステム全体での財政負担の軽減が可能な処理方式を検討していきたい。	コ	財政負担は極力減らすことが望まれるのは当然であり、将来的にも経費負担が増大しない処理方式が望ましい。
イ	財政負担の軽減を図ることは最も重要な課題の一つである。新たな用地の購入、跡地の利活用、所有地の処分方法などと併せて、費用対効果や比較検討資料により随時説明することと、負担のあり方、金額などわかりやすく示していくことが必要である。	サ	自治体では、高齢化や税収減などにより、今後も厳しい財政状況が続くと予想されるので、財政負担の増加を避けるべきと考えるが、一定の負担はやむを得ない。
ウ	今後も厳しい財政状況が予想されることから財政負担の増加は出来るだけ避けたい。	シ	人口減少や少子高齢化の進展に伴い、税収の大きな伸びは期待できず、今後も厳しい財政状況が続くことが予想されるため、財政負担増は極力抑制したい。
エ	様々な負担が伴うのは理解している。 厳しい財政状況ではあるが、可能な範囲での財政負担はやむを得ないと考える。	ス	設備投資をして処理をしていく以上、財政負担の増は仕方ないが、最大限の効率を考え、財政負担の増を最小限にしていく必要がある。 また、この機会に、遠距離を搬送するための負担が交付金等の対象となるよう模索をお願いしたい。（該当自治体の負担となるとしても）
オ	財政状況は厳しいが、より負担が軽く有効なところから進めていってはどうか。	セ	多少の財政負担増はやむを得ない。今後検討を進めていくことになっている。
カ	財政負担が増額しないことが好ましいが、循環型社会の推進や環境負荷低減（最終処分量の削減と最終処分地の延命化）、財政負担との費用対効果の比較による検討が必要である。	ソ	目標としては少ない経費で大きな効果をと期待してしまうが、中々難しい問題であると認識している。
キ	住民の利便性が向上することが第一義であるが、新たな環境対策等による財政負担もやむを得ない。 地球の持続的な発展のためには、自治体の役割は重要である。	タ	ごみの共同処理に加入した場合、財政負担が増加することについては、やむを得ないものとする。
ク	財政的負担の増加は避けたいので、各市町村でごみを運搬・搬入するまでのプロセスで経済的手法を検討していく。	チ	小規模市町村は財政状況が弱いので負担の増加は望まない。
ケ	今後の財政状況にもよるが、負担の増加は避けるべきと考えるが、中途半端な施設で、あとから変更により再度費用がかかることは避けるべきであるため、施設整備の内容と維持管理費も合わせて検討すべきと考える。	ツ	ごみ処理方式ごとの負担について比較し、負担を抑えたものを選択したいが、多少の財政負担増があっても、地球温暖化防止等、環境に配慮したものを選択すべきだと考える。
		テ	大幅な財政負担増は避けなければならないと思う。 悩ましい問題ではあるが、ごみ処理方式によるメリット、デメリット、財政負担等を考慮する必要があり、程度問題だと思う。